

ようこそ 図書館へ

第22号

2017年3月
津市図書館



おもしろ 内容

P 1 ~ P 3 ...今年度も様々な行事を行いました！
P 4レファレンス事例集
P 5知ろう私たちの郷土

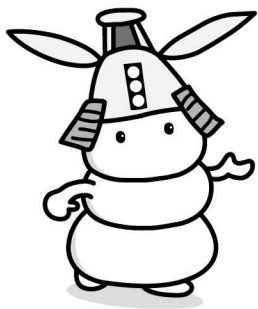


◀全身パフォーマンスで
「よしながこうたくワールド」を
展開
観客は次に何が起きるか
ワクワクして目が釘付けに
(久居ふるさと文学館)



会場から次々とお出されるリクエストで▶
あっという間に描かれた原画
サンタと動物達たちの楽しみな
様子が伝わってきます
(一志図書館)





今年度も様々な行事を行いました!



谷口 智則 さん 講演会



津市一志図書館では、平成29年1月22日(日)に、絵本作家の谷口智則さんによる講演会を開催しました。当館では、1年おきに講演会を開催しています。今年は海外でも活躍する、今、最も注目の絵本作家の谷口智則さんに「絵本がつなぐ日本と世界」と題して、子どものころに影響を受けた童話、絵本作家をめざすきっかけ、自作の絵本の朗読と作品に込めた思いなどお話ししていただきました。

子どもの頃はドラゴンボールの絵をよく描き、友だちからはその出来ばえを褒められていた子だったそうです。進学校に進んで、大学を決めるときにふとたちどまって、自分が本当にやりたいことは何かを考えたとき、何か世界に通じることがしたいと決意し、美術大学へ入学。20歳のときにポローニャ国際絵本原画展をみて、独学で絵本を作り始められました。

絵本『サルくんとお月さま』で、作家としてデビュー後、日本だけでなく、フランスやイタリアなどで数々の絵本を出版し、今では、絵本の世界にとどまらず、テレビ、雑誌、企業広告、商品パッケージ、店舗デザインなどあらゆるメディアで活動の場を広げてみえます。



また、講演会後半では、参加者のリクエストに応えながら、いろんな動物をあっというまにどんどん描いて、大きな2枚の絵を完成させていただきました。参加者のみなさんは、世界中の人々に想いと感動が伝わる絵本作りを目指されておられる谷口さんの絵本の世界を感じ、十分に楽しんでいただいたのではないのでしょうか。



原田 マハ さん 講演会



津図書館では、平成29年1月28日(土)に作家の原田マハさんによる講演会を開催しました。「人生の宝物～私をつくった文学とアート～」と題した講演会は、整理券が配布初日に20分でなくなるほどの人気ぶりで、会場はほぼ満席でした。

講演では文学とアートがどのように原田さんの人生に光を投げかけてくれたのかということを中心に、影

響を与えた本や絵画、映画などについてのお話がありました。お父様が美術全集のセールスマンだった関係で家に在庫が沢山あり、最初に手に取った本がそれらの美術全集だったそうです。「これだ！」と思う絵を見つけるとすぐにチラシの裏に模写をしていたそうですが、ピカソの「鳥かご」という作品は私でも描ける！と何故かピカソにライバル心を燃やしていたそうです。

子どもの頃に欲しいとご両親に言ったら必ず与えてもらっていたものが「本」と「映画」と「展覧会」でした。小さな頃からたくさん本を読み、映画や絵画を見てきたことが原田さん自身や書かれた作品に影響を与え、その後のアートと文学のある人生をすごすことにつながりました。

参加された方々もすっかり原田さんの楽しく力強いお話に引き込まれて聞いていました。

最後にご自身の作品「楽園のカンヴァス」の中の一節を津市の皆さんへと送っていただきましたが、中にはこの言葉を聞かれて感動のあまり涙を流している方もありました。

原田さんに影響を与えた作品たちをぜひ実際に見てみたいくなる講演会でした。



よしなが こうたくさん 講演会



久居ふるさと文学館では平成29年1月29日（日）に、絵本作家よしながこうたくさんによる講演会「読み聞かせ&ライブペイント」を開催しました。

開演時、子どもたちが大きな声で「こ～たくさ～ん！！」と呼びかけ、先生が登場です。先生はハッピー姿で頭には手製のぬいぐるみをかぶり、三線を鳴らしながら下駄で入場！よしながこうたくワールドの始まりです！

「ただの絵本のイベントですからね、期待しないように」と前置きながら、自己紹介、ウォーミングアップの「イメージしてみよう！」など、こうたくさんが話すたびに会場から、子どものみならず大人の笑い声も響きました。

およそ絵本など作らない人物に絵本を作らせる企画から白羽の矢が立ち、『給食番長』は生まれたそうです。今年は、絵本作家として10周年目を迎えられました。

子どもの頃から絵を描くことは好きだったそうで、無造作に描いた線から絵を想像するスケッチ遊びをされていたそうです。

次に「給食番長」と「ワオッコ」の読み聞かせがありました。以前こうたくさんが読み聞かせをしても、子どもが途中で帰ってしまうという屈辱的な体験をされたこともあり、その経験から「子どもを絶対逃さない読み方」を編み出したそうです。今回の「給食番長」は博多弁バージョンでした

「ぐい～い～い～ん（先生クルクル回る）こお～ん（クルクル）かあ～あ～あ～ん（クルクル）こお～お～ん（決め！！）・・・」子どもも大人も「給食番長」の世界に誘われてしまいました。

休憩をはさんで、いよいよライブペイントです。およそ一辺1.5mの正方形の紙面に「久居ふるさと文学館のゆるキャラを作ろう！」と始まりました。こうたくさんは参加している子どもたちから体のパーツ、その色などリクエストを聞き、子どもたちも一緒に描きながら進めていきます。

「顔はプリキュア」「体はサル」「しっぽは有り」「手はドラえもん」「足は仮面ライダーエグゼイド」というリクエストで絵が完成していきます。最後に子どもたちが「あいでもぴちゃん」と名付けました。この「あいでもぴちゃん」は「踊ってたらアリ地獄に落ちちゃった。アリ地獄も楽しくなって一緒にスケートしてる。」という設定のゆるキャラです。

講演は、白熱し30分程延長しての終了となりました

今回の絵本作家講演会への多数のご参加ありがとうございました。

よしながこうたくさんの絵本は、久居ふるさと文学館をはじめ市内各図書館でも読むことができます。先生と子どもたちのコラボゆるキャラ「あいでもぴちゃん」は、文学館にて好評展示中です。ぜひ見に来てね！

レファレンス事例集

Q こんにゃくいもや、しいたけの栽培について知りたい。

A 農山漁村文化協会の「つくってあそぼう」「そだててあそぼう」シリーズで紹介した。
「こんにゃくの絵本」たかはし ひろゆき/へん
やまざき かつみ/え
「コンニャクの絵本」うちだ しゅうじ/へん
さくらい さとみ/え
「シイタケの絵本」おおもり せいじゅ/へん
いいの かずよし/え

Q 松菱の前身が知りたいので、戦後まもなくの津市の写真が見たい。

A 「津の今昔」に平成20年と昭和20年代の岩田橋より北遠望」の写真がありました。現在松菱のある辺りは「全焼した石水会館の鉄骨を補修して建てられた映画館」だったようです。石水会館の歴史について津市史第5巻に記載があります。
「津の今昔」小玉 道明 監修 郷土出版社
「津市史 第5巻」梅原 三千 執筆
津市役所
「津市要覧(津市全図)昭和9年」(古地図)



図書館員のおすすめの本

『漱石夫妻 愛のかたち』 松岡陽子マックレイン 著 朝日新聞社

読書感想文と言えば、「吾輩は猫である」の著者、夏目漱石が頭に浮かぶ方が多いのではないのでしょうか。

生誕150年、今も読み継がれる文豪の素顔や生きた痕跡。漱石の夫婦愛、親子関係、家族観などが孫娘の筆により綴られています。

『がっこうたんけんしょうがっこうだいずかん』

WILLこども知育研究所 編・著 法嶋かよ/常永美弥 絵 金の星社 発行所

4月から小学校に入学する子供たちは、わくわくドキドキしていることでしょう。

小学校ってどんなところか、この本のページをめくればわかります。

どんなおへやがあるのかな？そのへやで何をするのか？本の中で学校たんけんです。

図書館員の ひとりごと

【雪の朝】

大雪が降った日の朝、館内の掃除をし終えて入口を見ると1羽の小鳥。降り続く雪と冷たい風を避けるように庇の下に首をすくめてうずくまっています。

『今日はあなたが一番乗りですよ』

かわいいお客様は開館を待っているかのようです。

『ごめんね。もう少し待ってね』

すると人影に驚いたのかあわててどこかへ飛んで行ってしまいました。

『図書館の中で温まっていけばよかったのに・・・』

寒い朝、笑顔で開館できた出来事でした。

知ろう私たちの郷土

藤堂藩の「大坂夏の陣」関係の古文書 川上 裕子

「大坂の陣」とは、徳川方と豊臣方の最後の合戦となった戦である。慶長19（1614）年の冬の陣と翌20（元和元/1615）年の夏の陣と2回にわたり行なわれた。

その最後の合戦となる夏の陣では、藤堂高虎は井伊直孝らとともに徳川方の先鋒として参戦をする。彼らの軍は大坂の八尾・若江周辺で、豊臣方の木村重成・長曾我部盛親の軍と戦っている。5月6日・7日に行なわれたこの戦いは激しく、高虎は従弟である藤堂新七郎良勝や姉の子で甥に当たる藤堂仁右衛門高刑を含む多くの家臣を失った。この夏の陣については、さまざまな歴史書はもちろん、郷土資料でも高虎の伝記や藩の歴史を記した『宗国史』や『津市史』など数多くの資料に記されている。

さて、津図書館の「稲垣文庫」や「橋本文庫」には、藤堂藩の「大坂の陣」について記された古文書が数点所蔵されている。

その一つが「稲垣文庫」の『大坂夏陣御先手勤方覚書』（稲L21-7～9）という資料である。

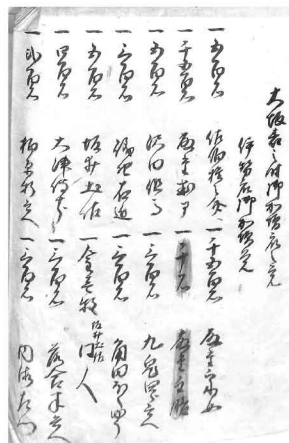


（写真① 左：巻一・二の表紙、右：巻一冒頭）

全5巻3冊から成るこの資料は、大坂夏の陣の始まりから終わりまで、全体の流れとともに高虎やその家臣の戦いの様子を中心に記している。八尾や若江などの合戦の項では、主な藩士1人1人の戦いの様子やどんな人物であるかなどについて述べている部分がある。例えば八尾合戦の新七郎良勝の部分では、敵方の木村の兵と「鉄炮を打合」、敵味方ともに「手

負数多御座候」と戦いの様子を述べた後、彼が高虎の「外戚の従弟」で「十四歳^{より}出陣の供」をしたと書いている。また、この資料の巻五には、合戦で討死した者を弔うために、八尾の常光寺に安置した位牌の文字を書き写した「牌面列名」も載せる。

この合戦後、高虎は家康から伊勢国の鈴鹿・安芸・三重・一志郡から領地を拝領した。その後、津に帰ると藩士にはその働きにより賞罰を与えた。これに関する資料として「橋本文庫」の『大坂御陣家中感状記』（橋L28-23）がある（写真②）。



（写真②）

これは藩士約150人を1人ずつ名前や褒美の有無、働きについてまとめたものである。例えば、一番目に出てくる岡本八大夫は「六日之御合戦」で功績があったので、「金一枚外銀一枚」が与えられたとある。また、『大坂御陣家中書上之寫』（橋L28-24）という、藩士に褒美として加増した石高を記した資料もある。例え

ば、「千五百石 藤堂采女」というように石高と名前を載せる。

他にも『藤家輯成秘考』（橋L28-11～22）など、さまざまな資料があり、こうした資料から藤堂藩から見た「大坂の陣」について知ることが出来る。

参考文献

梅原三千 西田重嗣著『津市史』第一巻（津市役所昭和34年）、梅原三千原作 西山光正訳・編・刊『実伝藤堂高虎』（平成20年）、石井謙治〔他〕著『ビジュアルファイル 戦国合戦イラスト&マップ集』（学研パブリッシング 平成22年）、中村勝利校注『元和先鋒録』（三重県郷土資料叢書第78集 三重県郷土資料刊行会刊 昭和51年）（他）

休館日・開館時間などのご案内

※下記の休館日のほかに特別整理期間（年1回、14日以内）や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。

津市図書館ホームページ及び携帯版ホームページ

<http://www.library.city.tsu.mie.jp/>



携帯電話QRコード

館名	開館時間	休館日(全館共通)
津図書館 ☎ 229-3321 〒514-8611 西丸之内 23-1 津リージョンプラザ内	平日 9:00～19:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	
久居ふるさと文学館 ☎ 254-0011 〒514-1136 久居東鷹跡町 2-3	平日 9:00～18:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	
ポルタひさいふれあい図書室 ☎ 254-0464 〒514-1118 久居新町 3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日 10:00～21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00～18:00	
河芸図書館 ☎ 245-5300 〒510-0314 河芸町浜田 782	10:00～18:00	
芸濃図書館 ☎ 265-6004 〒514-2211 芸濃町椋本 6824 津市芸濃総合文化センター内	9:00～17:00	
美里図書館 ☎ 279-8122 〒514-2113 美里町三郷 51-3 津市美里文化センター内	9:00～17:00	
安濃図書館 ☎ 268-5822 〒514-2326 安濃町東観音寺 418 津市サンヒルズ安濃内	10:00～18:00	
きらめき図書館 ☎ 292-4191 〒514-0314 香良洲町 2167 津市サンデルタ香良洲内	9:00～17:00 (7・8月の平日は 18:00まで)	
一志図書館 ☎ 295-0116 〒515-2521 一志町井関 1792 とこどもの里一志内	10:00～18:00 (7・8月の平日は 19:00まで)	
うぐいす図書館 ☎ 262-5000 〒515-2602 白山町二本木 1139-2 津市白山総合文化センター内	平日 10:00～18:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	
美杉図書室 ☎ 272-8092 〒515-3421 美杉町八知 5580-2 美杉総合文化センター内	9:00～17:00	

火曜日
 毎月最終木曜日
 年末年始(12月28日～1月4日)

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ 第22号

発行日/平成29年3月1日 編集及び発行/津市教育委員会 津市津図書館
 三重県津市西丸之内23番1号 津リージョンプラザ内 ☎(059)229-3321